

2021.8.26 (木)
第7回例会
(通算3634回)

2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン『我がロータリーを楽しむ。我が地域を育む。』

第85代会長 杉村 莊平
副会長 浅川 正紳
幹事 市橋 多佳丞
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2021-2022年度
国際ロータリーテーマ



2021-2022年度
RI会長 シェカール・メータ

第2500地区ガバナー
漆崎 隆 (釧路ベイ RC)

月間テーマ	会員増強・新クラブ結成推進月間
本日のプログラム	講師例会「k-Biz 開設3周年 実績とサポート事例」(担当:プログラム委員会)
次週例会	会員卓話「私の怖いもの。1,2,3」(担当:プログラム委員会)

- ロータリーソング: ■ソングリーダー: 池田 一己君
- 会員数 100名
- ビジター なし
- ゲスト 釧路市ビジネスサポートセンター k-Biz 副センター長 田辺 貴久様

会長の時間

杉村 莊平会長



皆さん、こんにちは。お食事の方はお続けください。本日も多数ご出席いただきまして、ありがとうございます。

まずは先週と引き続きプログラムの件でご報告させていただきたいと思っております。54歳以上のワクチンが進んできて、やっといい方向に向かうかなと思っていた矢先ですが、緊急事態宣言が発令されてしまいました。

今年度、年度が始まる前に理事会でコロナに関する規定については協議済みでございまして、「緊急事態宣言が発令されたら、自動的に休会でいこう」という申し合わせをしておりましたので大変残念でございますが、来週の9月2日と9日の例会は休会とさせていただきます。

また、宣言明けの16日ですが、これも例会でお話していたように、私も大変楽しみにしておりました夜間例会を再開する予定でしたが、12日の緊急事態宣言明けすぐに夜間例会というのはさすがに難しいだろうなと思っております。大変、苦渋の選択でございますが、今月中、正式に皆さんにメールでプログラムのご案内をしたいと思っております。何卒、ご理解・ご協力いただければと思っております。

メンバーの皆さんには本当にご迷惑おかけします。特にプログラム委員会の皆さん、また親睦活動委員会の皆さまには二転三転のプログラムになりまして、ご迷惑おかけしております。何卒、事情を理解していただいた上で引き続きご協力お願いしたいと思います。16日には皆さんの元気な顔をもう一回、再開して拝見したいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

暗い話は以上でございまして、先ほど言い忘れましたが、今日の田中君の入会でメンバー数が100名に戻らせていただきました。久々に100名復活でございますので、増強委員会の皆さまを含め105ぐらいなるように引き続き頑張っていきたいなと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

コロナに暗いニュースが多いものですから、今日はコロナに関連して少し明るい有意義なお話を、有意義になるかどうか分かりませんが、したいなと思っております。

まずはクイズを行いたいと思っております。最近、コロナ報道でカタカナ表記が多くててんやわんやしておりますが、ワクチン・ウィルス・インフルエンザ、これ何語が語源か分かりますか？ 多分、天方さんあたり分かるかと思うのですが、これ、ラテン語が語源でございます。

第2問でございます。インテリ・イクラ、このあたり

はロシア語でございます。ポンコツ・メリハリ・テンパる・ビじる、これ何語か分かる方いらっしゃいますか？ 天方さん、分かりますか？ 残念でございます。日本語でした。これは日本語なのですね、すみません。ということで大変有意義なクイズでございました。もうひとつ、いろいろコロナで調べて全く違う視点で考えております。コロナで大変多くの犠牲者がいま出ているところで、少し不謹慎なところもありますが、これまで毎年コロナ以上に人間を殺してきた生き物が多数います。この「ベスト3は何だろう」という話です。ヒントですが、第3位は蛇で5万人。第2位は人間なのですね、人間で47万5,000人。じゃあ、1位は何かというところですが、分かる方いらっしゃいますか。

あっ、中島君が言った、ピンポン。蚊でございます。蚊が72万5,000人、毎年殺しているようですね。これは何かと言うとご存知の通り、デング熱とかマラリアでして、これは蚊を媒介にした犠牲者だとなっております。

この犠牲者の72万5,000人を何とかならんのかという議論があるようです。これ、遺伝子工学を利用して蚊に不妊になる遺伝子を組み込んで野外に放つだけ、という研究結果が出ておまして、もうそろそろ実証実験に入るようでございます。こうしていくと、だんだんこの遺伝子が何代も引き継いでいって、その蚊の集団が絶滅していくという仕組みのようです。自然界にこんなことやっていいのかという話なのですが、専門家によると蚊は無くなってもいいという話らしいのです。人間がそんなジャッジをしていいのかもありませんけども、そういう話がありました。大変、有意義なお話でした。

そういうことで、われわれもコロナとやって行かなくちゃならないのですが、人間が今までに撲滅できた疫病は天然痘だけなのですね。ポリオもロータリーは一生懸命頑張っていますが、まだ根絶まで至っていないので、根絶できたのは天然痘だけということです。

そうすると、コロナとこれからも共存していく選択をしていかなければならないのかなと思います。この共存ということしていくと、やはり消毒や殺菌という対抗措置とは別に、子どもの頃からそのウィルスや雑菌に馴染んで、それから子どもの頃から免疫を作っていくことが重要になるようです。そう考えますと、この人間界は全く同じことで、新しいさまざまな人間と出会うことによって、自分を成長させることが人間界でも本当に同じことだと思っております。

このコロナの中でロータリーは、皆さん今日もたくさん来ていただいております。見渡しますと、この釧路クラブにはさまざまなタイプのウィルスの宝庫としていっぱいいらっしゃるわけですが、みんなのことですよ、いらっしゃるわけですが、このウィルスもここに甘んじることなく、今日の田中君もそうなのですが、

これからもどんどんウィルスを受け入れて、抗体を強くしていくことが、これから100歳、150歳を迎える心身共に健康である釧路クラブにとって、これからも健康でいく唯一の方法じゃないかと思えます。85周年の会長挨拶でございます。

本日はこれから田辺さんに講演いただきます。非常にまた有意義なワクチンを打っていただけそうなお話ですので、どんどん皆さんに有意義な抗体を作りながら、どんどん心身共に健康になっていきたいと思えます。

以上でございます。ありがとうございます。

幹事報告 市橋多佳丞幹事

皆さま、こんにちは。幹事報告させていただきます。他クラブの例会につきましては皆さまにお配りしております例会報告をご覧くださいと思います。

また、杉村会長からご案内がありましたとおり、当クラブ9月2日と9月6日の例会を休会とさせていただきますので、例会案内に書いてあります次週のプログラムにつきましては休会となりますので、皆さまご理解をお願いいたします。

また、来週に予定しておりました理事会の開催日も延期させていただきまして、理事者の皆さま方に改めてご連絡させていただきますので、ご承知おきいただければと思います。

また、先日皆さま方にご協力いただきました熱海豪雨災害に対する義援金が、2500地区で取りまとめが終了して、総額187万1,540円を皆さま方からのご協力いただいたという報告が来ております。ご協力ありがとうございました。

最後ですが、『ロータリーの友』から案内が来ております。この度『日本のロータリー100年史』という書籍が発刊になりました。「在庫がたくさんあるので皆さまにご協力いただきたい」と、当クラブ在籍のバスターガバナー吉田潤司君からロータリーの友第1ゾーン顧問を務めているということで案内が来ております。詳細はホワイトボードに貼っておりますので、ぜひご興味のある方はご確認をいただきたいと思えます。

当クラブの方に1セットありますので、ぜひご覧になっていただければと思います。ご協力よろしく願いいたします。

以上でございます。

新入会員紹介

スポンサー 石田 博司会員

田中弘明君をご紹介いたします。料理空間たなか。先ごろ、栄町公園のA面横から越して来ました。まだ引っ越してきて間もないが、張り切っ



て仕事しています。ご家族が奥様とお嬢さん二人。趣味としてはゴルフも麻雀もしない、お酒は大好き、ということであれわれとお付き合い

できるところと思います。

年齢が44歳なのですが、花の44歳は3人いるのですよ。菅原住職、それから純水・純ちゃん、それから彼が44歳。

一番若いのは誰でしょう。一番若いのは一番左にいる副幹事の田内君が37歳。そういうことで非常に若返ることになると思います。

以上、簡単ですけれども私からのご紹介といたします。では、本人からどうぞ。

新入会員の挨拶 田中 弘明君



皆さま、こんにちは。今、紹介いただきました田中弘明でございます。この度は歴史と伝統のある釧路ロータリークラブに入会のお許しを

いただきまして、誠にありがとうございます。私は専門学校卒業後、釧路に戻り調理師として全日空ホテルで15年、八千代本店で3年、そして7年前に『料理空間たなか』という小さな日本料理店を開業いたしました。

ホテル時代には常陸宮殿下・妃殿下が釧路にお見えになった時に代表として責任を持っておもてなしをさせていただいた経験もございます。5年前からは、厚岸翔洋高校調理科の日本料理の講師もさせていただいております。

今後は釧路ロータリークラブの一員として身を引き締め、奉仕活動を通じて社会貢献をし、郷土釧路の役に少しでも立てるよう精進して参ります。

ご指導賜りたくお願い申し上げます。誠にありがとうございます。

歓迎の言葉と委員会配属の発表 杉村 荘平会長

田中君、ご入会おめでとうございます。クラブを代表いたしまして歓迎申し上げます。

いつも同じ話ばかりで恐縮でございますが、入会は義務ではなく権利、出席は義務ではなく権利だと言われております。せっかく入ったロータリーですから、その権利を大いに活用

して積極的に溶け込んでいただければと思っております。

最初の三カ月が、非常にハードルが高くて大変なのですが、そこを乗り越えていただいて、積極的に参加していただければと思っております。

委員会は増強委員会でございます、五十嵐委員長は今日来ておりませんので、池田一己副委員長でございます。どうぞよろしく願いいたします。

分からないことがあれば委員長・副委員長・スポンサーになんなりと聞いてください。

よろしく願いいたします。

■本日のプログラム■ k-Biz 開設3周年 実績とサポート事例

クラブ運営委員会 中島 徳政委員長

プログラム委員会の工藤さんが旅に出られましたので、代わりに本日の講師をご紹介させていただきます。その前に『料理空間たなか』のお店の場所を石田さんはパスされましたけども、第15エーワンビルプレミアムの2階です。1階が言わずと知れた『金ちゃん』のあるビルの2階でご商売されております。大変、美味しいお料理ですので、ぜひ機会があればお願いしたいと思います。

それでは、本日のプログラムに入りたいと思います。本日のプログラムは「k-Biz 開設3周年、実績とサポート事例」ということで、昨年9月3日にご講演いただきました釧路市ビジネスサポートセンター k-Biz 副センター長の田辺貴久様です。

皆さん、有意義な時間をお過ごしいただければと思います。よろしく願いいたします。

釧路市ビジネスサポートセンター k-Biz

副センター長 田辺 貴久様



皆さま、こんにちは。このような場でお話をさせていただく機会をいただきまして、誠にありがとうございます。ただいま、ご紹介をいた

いただきました釧路市ビジネスサポートセンター k-Biz 副センター長の田辺と申します。この間、8月21日に k-Biz 開設いたしました3周年となりました。今日はその実績と、k-Biz の方でサポートさせていただきました事例をいくつかご紹介させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

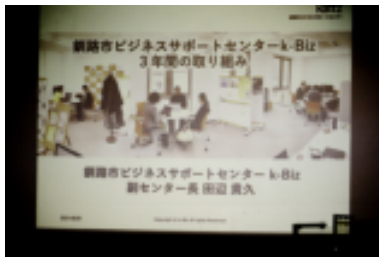
はじめに、釧路市ビジネスサポートセンターは、釧路市と地元の金融機関・商工会・商工会議所等で運営している「釧路市ビジネスサポート協議会」の下での無料の経営相談所となっております。こういった相談施設はいま全国で開設予定を含めて26か所あるのです

が、釧路はもともと地元の同友会さんからこういった場所を開設したいというお声をいただきまして、市の方で開設に至ったということで、地元の皆さまからのご協力をいただきながら運営をしております。

具体的には、売り上げアップ、商品のコンセプト作り、情報発信、等ビジネスのプラスになるようなご提案・ご相談を行っております。基本的に1回1時間でご予約制となっております。何度ご利用いただいても、どんなサポート受けても無料でご利用いただいております。

お話を聞く中で会社様や店舗の強みを一緒に見つけて、それを伸ばしていくことで売り上げをアップしようということの特徴としています。手ぶらで来ていただいて、雑談の中からいろいろヒント、チャンスの兆しを見つけていくスタイルで行っております。

2018年8月21日に開設いたしまして、当初は澄川センター長1人でサポート相談を承っていましたが、



非常に多くの方にご予約を賜りまして、長い時は2カ月待ちという状態だったため、体制強化をすることになり、私が

2019年12月にブランディングマネージャーという肩書で加入させていただきました。

オープンから約3年の累積相談件数が、ちょうど今年の7月に累計5,000件となりまして、市長にもお越しいただきまして簡単なセレモニーを行わせていただきました。

現在、事業者様でご相談に来ていただいている数が約750社様、これは個人事業主の方も入るのですが、こちらが釧路市に登録されている法人数が約8,000と聞いておりますので、1割弱の方にご利用いただいている計算になるかと思えます。

おかげさまで、k-Bizでご支援した取り組みについてはテレビ・新聞などでも報道いただいております、市民の皆さまにも認知いただいているような状況でございます。

k-Bizではただいま3人で相談対応させていただいております。センター長の澄川はもともと『リクルート』で営業のマネージャーをしていた人間です。私は現在、副センター長として事業全般の相談業務に携わっております。私もリクルートで澄川と同じく住宅メディアを担当していました。澄川はSUUMO(スーモ)の営業で、私は雑誌の編集を行ってまいりました。

よく「澄川さんに引き抜かれたのか」と言われるのですが、私がたまたま出張で釧路に来る機会ありまして、その時に澄川さんが釧路にいたな、ということで、そのとき初めてどんな仕事をしているのか話を聞いたの

です。その際に「中小企業の売り上げ支援の仕事をしている」との話を聞きまして、非常に有意義な仕事だなと思ひ、私から「もし、求人があるようだったら、応募させてもらいます」と話をしたのです。もともと澄川とは直接おなじ部署で働いていたわけではなかったのですが、現在はお互いの強みを補完し合いながら、チームで協力して業務にあたっています。

もう一人、ITアドバイザーとして佐々木さんがサポート業務を行っています。地元ですとIT関係のお仕事されている方で、ホームページの作り方、あるいはSNSの発信で情報発信・情報作りのサポートをさせていただいております。

k-Bizは、請け負って何か作るという場所ではないので、一緒に画面を見ながらホームページの作り方などをサポートさせていただいて、自力で作れるようになった方もいます。

スタンスとしては、あくまでも評論家として客観的に物事を言うのではなくて、一緒にお仕事をしている実務者のような立場でお話を聞かせていただいております。イメージは「1時間だけ御社の社員です」ということで使っております。

一般的に「この業界だとこういうことが一般的ですね」みたいな話をしても、それがその会社様や店舗様に必ず合致するか、適切か、は別の話ですので、あくまで個別にその会社さんや店舗さん、個人の方の特徴に合わせた「一番、最適なやり方は何か」を考えるようにしています。

私、個人の自己紹介ですが、千葉県出身です。大学卒業後は一貫して雑誌社にいたのですが、なかなかいい会社に恵まれずに1年ごとに転職をして、やっと『リクルート』で12年勤めました。昨年、機会を頂戴いたしましてLGBTの話させていただいたのですが、会社でも人事部でダイバーシティの担当をさせていただいております。2019年12月に釧路に引っ越して来まして、ただいま副センター長として働かせていただいております。

では、K-Bizの3年間の活動実績ということで簡単にご紹介させていただきます。

先日21日、ちょうど開設3周年の日に釧路新聞さんに大きく取り上げていただいたのですが、2020年度の相談件数はこれまで最多の2,025件で、今では2~3週間くらいお待ちをいただいております。

昨日までの件数としましては、累計5,266件の相談対応させていただいております。その内訳としては、事業全般のご相談が約3割強、販路開拓のご相談が約3割強、情報発信のご相談が約1割強。新商品・新サービスのご相談が約1割強となっております。それから個人の方ですと創業・独立のサポートとして、例えば事業計画書作成のお手伝いをしたり、融資な

どの段取りをお伝えしたりといったことをおこなっております。

また、人材確保についてのご相談も多くいただいております。最近では給与面だけでなく、働き方や職場環境について重視される傾向もありますので、求人票にそうした情報を盛り込むアドバイスなどもさせていただいております。

月ごとでみますと、月に200件前後ご相談対応させていただいております。この青い部分は新規相談で、毎月10件くらいの新規の方にお越しいただいております。おかげさまで、ご紹介で来ていただく方も結構いらっしゃいます。

相談の申込内容ですが小売りの方、サービス業の方、飲食の方が多いのですが、製造業の方、あるいは建設業の方にも来ていただいております。

K-Bizの支援の特徴として、これは各地のBizを作った小出宗昭さんが仰っている言葉ですが「どんな会社・どんな方にも必ず光るものがある」ということで、そのセールスポイントを見つけて、それがどういったビジネスにつながるのかターゲットを絞ってみたり、あるいは利用シーンを想定してそれに合った情報発信をしたり、うまく連携・コラボをするとそのシナジーが光るところと接点を見出したりといったご提案をさせていただいております。

また、大事にしているのがお金をかけずにチャレンジできる、そして必ず実現できそうなことをご提案することになります。それを効果的に情報発信するという特徴となっています。

では、具体的にどんなサポートさせていただいているのか実例を少し紹介させていただきます。

こちらは『美味いっタラ！フライ』という商品を製造販売されている、マルヒ菅野水産加工株式会社さん。千代ノ浦の方でタラの加工を長らくされている創業約80年の老舗の水産加工業者さんです。こちらのお写真に写っていらっしゃるのが、ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、マルヒの母さん。商品開発を長くされているお母さんが「タラを使ったフライを作りました」というお話でしたので、こちらの商品のブランディングと販路開拓をお手伝いさせていただきました。

売上アップを実現したポイントは、マルヒの母さんが非常にチャーミングな方なので、このキャラクターを生かすことと、全部手作りですので製造量にも限りがあるため、どのように売っていったらいいか販売方法を一緒に考えました。

マルヒの母さん、菅野さんがこの商品を開発したきっかけは「魚嫌いの方にも食べてほしい」ということでした。タラの臭みを抜こうと軽く干して味付けをして、と、普通の白身魚フライのより、かなり手間をかけたフライを、2年くらい何度も作って試食して開発され

たとのことでした。課題としては、世の中では白身魚というと海外で作った物も含めて非常に安いのですが、このたらフライはこだわった部分をちゃんと伝えて、適切な価格で販売したい。そのためには、どういう風にこのコダワリや特徴を伝えていくかということ、それと美手作りのため大量生産できないので、一気に売れ過ぎて困るので、売り方を工夫したいということ。その2点をどのように解消していくかを一緒に考えました。

このお母さんのキャラクターが分かるようにと、魚嫌いの方に食べてもらおうということで、お子さん向けにもチャーミングに見えるような名前とロゴを一緒に開発いたしました。

また販路については、もともとマルヒ菅野水産さんは卸売が中心なのですけれども直売所が工場横に併設されていまして、直売会を販売方法としました。実際に「直売所で販売会やりますよ」のチラシも簡易なものですがお作りするのをお手伝いしました。さらに販売会実施をメディアにもお伝えして、新聞等でも紹介いただいたことで、当日はたくさんの方にお越しいただきまして、1回でだいたい300セット売れるような人気の販売会になりました。

直売会のあと、このフライの情報をみた桜ヶ岡のハンバーグレストランの『ピストロカーサ JiZi』さんでもメニューで取り扱っていただいております。また、釧路の城山にある高級品を多く扱っていらっしゃる『ミニスーパーはっとり』さんで取り扱いが決まり、さらには渋谷に本部があり全国展開する『J.S. BURGERS CAFE』でも取り扱っていただいて、じわじわと人気が出ています。

ほかにも例えば地元の阿寒商工会とは、阿寒湖温泉のクラウドファンディングに『刃牙(バキ)』の作者の板垣恵介先生を巻き込んで、クラファンを盛り上げるきっかけ作りをしました。実際に板垣先生が阿寒湖に来ていただいて、自宅にあったこの刃牙の立像を寄贈していただいたり、原画をいただいたりと協力していただいて、これは全国ニュースにもなったお話でした。このほか、今日は時間に限りがあり、他の事例のご紹介ができないのですが、支援事例を報告書にまとめてホームページにも掲載しておりますので、ぜひご覧いただければと思います。引き続き、何かお役に立てるようなことございましたら、お気軽にお声がけいただければと思っております。これからも地元の皆さまのお役に立てるように頑張ってまいりますのでどうぞよろしく願いいたします。

今日はお時間いただきましてありがとうございます。

会長謝辞 杉村 莊平会長

田辺さん、今日はどうもありがとうございました。もう少しお喋りいただいても大丈夫だったのですが駆け足にさせてしまいまして、すみません。ありがとうございました。僕も最初、ご相談に行かせていただいたことありますが、どちらにしても3周年迎えて5,000件ということで、素晴らしい実績だと思っています。

僕は先週もお話しましたが、地域あつてのロータリーだと。何でもそうですけどね。どの商売もそうだと思います。何とか地域を良くするヒントをいただきたいと思いながら、こういう例会も今年はさせていただいております。やっぱり地域に活力があるように何とかして行きたいと思っている中で、k-Bizさんの存在は本当にわれわれ市民にとってもありがたいことでございます。大変、助かるところでございま

す。

1年ずつの更新という逆になってはいますが、釧路に根付いていただいて、釧路にどんどん成果を出していただいて、可能であれば違ったプロジェクトなんかも、クラウドファンディングになるか分かりませんが、そこはk-Bizさんのお仕事じゃないかもしれませんが、そういうのにつなげていくように、どんどん輪をかけて輪をかけて大きくなるような活動になっていただけるように祈念しております。

われわれも、改めてまずは自分の商売をしっかりとやるということになりますけども、釧路市のために協力しながら頑張っていきたいと思っております。

これからもぜひ協力、ジョイントさせていただきながら釧路のためにやっていきたいと思っております。これからもどうぞよろしく願いいたします。

今日はありがとうございました

本日のニコニコ献金

■木下 正明君 武漢ウィルス下のどさくさに紛れて娘と息子が結婚しました。

今年度累計 82,000円